「AI × セキュリティ」で、あらゆる空間の安心・安全と最適なソリューションを提案

谷口　辰成（たにぐち　たつなり）

株式会社セキュア 代表取締役社長
郡山市

企業を取り巻くセキュリティ環境

古来よりセキュリティの使命とは生命と財産の保全でした。しかしながら企業におけるセキュリティ（＝守るべきもの）の定義においては、SNSなどのソーシャルメディアの登場によって、大企業だけでなく中小企業においても信用や評判というものが守るべき重要な要素となりました。

バイトテロや情報流出等の事故（アクシデント）は、お金やモノが盗まれるよりも企業に多大なる経済的ダメージを与える時代になったといえます。

外部からの脅威にどう備えるかだけではなく、社内から生み出される脅威に対してどのように備え対応するかが、どの企業にも広く求められてきています。

また、2020年からは新型コロナウイルス感染症の拡大などによって、企業にとって従業員の健康管理の重要性も増してきています。

このような様々な要因に対して、企業は従業員を守っていかなくてはなりません。

当社の取り組み

当社は「AI ×セキュリティで新しい価値を創る」をビジョンに掲げ、企業の総務やシステム担当の方に寄り添い、安心・安全な環境を作るためにシステムの提案から構築、導入・施工、アフターフォローまでワンストップでセキュリティソリューションを提供している会社です。

具体的には、顔認証などの入退室管理システムや監視カメラシステム、画像認識サービスを組み合わせて、オフィスや飲食・小売業等の商業・

新宿本社　オフィス

サービス施設、工場等に、付加価値の高いセキュリティソリューションを提供しています。おかげさまで、現在7,500社を超える企業に当社のソリューションを導入・運用していただいております。

今回は当社の取り組みの一部を、ご紹介いたします。

AI 画像認識技術

当社では顔認証などの AI 画像認識を技術の中心において、セキュリティソリューションの高度化や多目的化開発を行っています。近年、飛躍的に精度が向上した画像認識技術によって、AI が自動で不審な人物を検出したり、来店客の行動を分析することにより、マーケティング目的での活用が可能となりました。

しかしながら、この画像認識技術は巷では魔法の杖のような期待感を高く持たれていますが、実は課題が多く取り扱いがとても難しい技術です。

第一に、セキュリティシステムはたくさんのデバイス（機器）を組み合わせてネットワークによって構成されるシステムです。システム上のどのデバイスでどのように AI 処理を行うかによって、パフォーマンスやコストが大きく変わってきます。

第二に、画像認識技術は光と影の影響をノイズとして受けてしまいます。様々なロケーションに設置されているカメラで精度を一定に保つことはソフトウェアだけでなく、ハードウェアやレンズの調整、設置方法まで最適化する必要があります。

当社では AI のエンジニアだけでなく、アプリケーションソフトウェアやハードウェアのエンジニア、さらに施工に関わる電気工事士まで、お互いの分野をカバレッジしながら、システム全体の最適化に努めています。

近年では特に新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、顔認証による非接触ニーズも増えておりますが、当社では上記の課題をクリアし、オフィスや商業施設、工場やデータセンター等で既に6,000件を超える顔認証システムの導入を対応させていただきました。

AI STORE LAB（無人店舗）

当社では、AI 画像認識技術を活用した新しい取り組みとして、東京の新宿住友ビルにて、「AI STORE LAB」という無人店舗を自社開発し、運営しています。

この店舗は初回だけ顔情報とクレジットカードを登録していただくと、２回目以降は、財布もスマホも持たずに手ぶらで顔認証決済によりお買い物ができる店舗となっています。

店内には複数の監視カメラやセンサーが設置されており、利用者が入店すると、誰がどの商品を手に取ったのかを AI が自動で認識します。例えば30代の男性がどの商品を何秒間手に取って、その後商品を棚に戻したのかあるいは買い上げたのか、さらにその時にどのような表情をしていたのかまで分析することができます。

現在は実証実験中ですが、近い将来、商業施設向けに展開できるよう事業化の準備を進めています。

新宿住友ビル内　AI STORE LAB

今後の取り組み

AI 画像認識技術を掛け合わせて使われる高付加価値なカメラは、今後セキュリティだけではなく、無人店舗をはじめとしたスマート店舗、スマートビルディングやスマートシティなど、活用の範囲はこれからまだまだ広がります。

当社では今後も継続的にこうした技術の向上に取り組み、新しい価値を創出して参ります。

空間をデータ化し、空間に知性を与えることにより、人々の生活や環境をより豊かにすることで社会に貢献して参ります。